

労働組合の想いをつなぐ情報誌

for UNION

Vol.
06

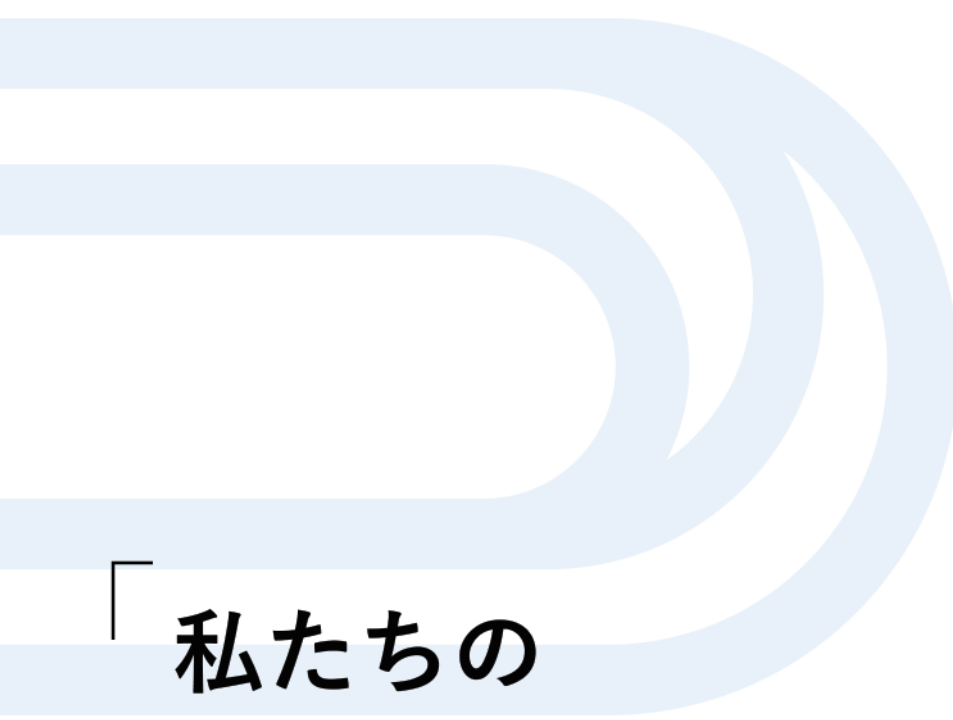


ワコール労働組合
中央執行副委員長
山内 一樹

導入インタビュー

組合からの情報発信をTUNAGに集約し、
コミュニケーションの活性化と
ペーパーレス化を図る

既存のHPを廃止し、TUNAG導入を決断した理由とは。



「私たちの

TUNAG for UNIONへの想い」

2022年1月にサービスを立ち上げて以来、数多くの労働組合様と対話を重ねる中で、

日々の活動の進め方から労働組合そのもののあり方まで、

幅広いお悩みをお伺いする機会をいただきました。

そのお悩みをもとに私たちもTUNAG for UNIONの存在意義に改めて向き合い、

“労働組合と組合員をつなぐ場所”

というフレーズで表現することにしました。

労働組合と組合員をつなぐ場所。



「具体的には何と何をつなぐのだろう?」と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「何と何をつなぐのか?」その答えとして、私たちはまず一番最初に

執行部と組合員様をつなぐことを本当の意味で実現できないかと考えています。

執行部の皆さんは、日々情報を発信するだけでも大変ご苦労されているかと思います。

私たちはそうした点をできるだけ減らし、

そして、さらには組合員一人一人にしっかりと受け取ってもらう。

この「受け取る」ことを私たちは大切にしていきたいと考えています。

“しっかりと情報を届け、そして受け取ってもらう”

こうしたことが実現できるよう「いつでもそこにある、訪れたくなる」という“場所”を

TUNAGでお客様と共に創り上げたいという願いもこのフレーズに込めています。

この“場所”の輪が広がっていけば、組合活動や組合員といった

「労働組合」を形づくる全ての要素と組合員をつなぐことができる新しい未来も

お客様と一緒に創り上げられるのではないかと確信しています。



TUNAG 導入事例紹介



組合名

ワコール労働組合

組織概要

京都府に本社を置く衣料品メーカー「株式会社ワコール」の労働組合。

お話しいただいた方

中央執行副委員長：山内 一樹 様

ワコール労働組合では、「会社と組織の発展を通してより働きがいのある職場を作り、充実した豊かな人生を実現する」を活動目的に掲げ、労使の相互信頼のもと組合活動を行っています。

組合員数、約 3,600 名。京都、札幌、東京、福岡に全部で 5 つの拠点を設ける同労働組合では、コロナ禍をきっかけに对面でのコミュニケーションの機会が減り、組合員同士のつながりが希薄になってしまったことを課題に感じていました。

「活動の軸は対面に置きながら、情報発信をデジタル化していくことで活動の幅を広げたい」。そう話す中央執行副委員長の山内 一樹様に、TUNAG の運用方法や期待する効果についてお話を伺いました。

ワコール労働組合

組合からの情報発信を TUNAG に集約

コミュニケーションの活性化とペーパーレス化を図る

課題

- ・コロナ禍でコミュニケーションが希薄に
- ・ペーパーレス化を実現し、コンテンツの幅を広げたい



導入前に感じていた課題

コロナ禍でコミュニケーションが希薄に

広報誌をペーパーレス化し、コンテンツの幅も広げたかった

山内：コロナ禍がきっかけで、コミュニケーションが希薄になってしまったというのが一つです。もともと、組合活動以前に株式会社ワコールとして、飲みニケーションなど対面コミュニケーションがあったんですが、コロナ禍でこれが激減してしまって、つながりが薄くなってしまったことが一番大きな課題でした。

他にも、広報誌を紙で全組合員に発送してたことも課題で、ペーパーレス化したい思いがあったんです。広報誌だと情報をリアルタイムに発信できず、発信した情報が見られているのか、

定量的に可視化できないという課題もありました。組合のホームページでは閲覧数を管理できるツールを入れてたのですが、そもそもホームページの更新に手間がかかる仕様で。内容も、広報誌のデータをアップするのと、広報誌のプレゼント企画の応募フォームを設定するくらいなので、基本的に、広報誌を読んでプレゼントに応募する人になら訪問してもらえない。それならば、プラットフォームを1つ作って、全てそこに集約すれば、自分たちのやりたいことが実現できるのではないかと感じていました。

TUNAG for UNION 導入のきっかけ

導入の決め手は、専任の担当者と二人三脚で運用できること

～そのような課題がある中で、TUNAG 導入の決め手は何だったのでしょうか？～

山内：もともとはTUNAG 以外にもう1つ別のアプリを検討していたんですけど、専任の担当の方がいるか、いないかの違いでTUNAG に決めました。TUNAG が展開しているサービス自体にももちろん興味はあったんですが、一番の決め手になったのは、カスタマーサクセスの担当の方がいるところですね。

自分たちだけで運用しないといけないとなると、少しハードルが高くて、他の業務に追われて更新頻度が低く

なってしまうんじゃないかと思ったんですが、専任の担当の方と二人三脚でできるというのが一番の決め手になりました。どういうふうに更新してい

たらいいか相談できるのも大きかったですし、他の労働組合さんの取り組みを横展開で紹介してもらえる点も、非常に魅力でした。



TUNAG for UNION を活用した取り組み

組合からの情報発信を TUNAG 上に集約、コミュニケーションを促すコンテンツも発信

～今後 TUNAG をどのように活用される予定ですか？～

山内：一番に取り組まないといけないと思っているのは、組合からの情報発信をTUNAG に集約することです。

今までメールや郵送などいろんなツールを使っていたので、そこをTUNAG に統一したいですね。中央執行委員会での内容や、事前の資料の共有、出欠確認について、現在はチャットツールを使って行なっていますが、その辺りもすべてTUNAG でやってしまおうと思っています。TUNAG を完全に軸にしながら、一部どうしても「紙でなければ…」という人たちもいると思うので、うまく併用しながらやっていきたいですね。

発信情報ツールを集約するという意味では、組合ホームページのコン

テンツはすべてTUNAG に移行して、TUNAG を組合員に対してローンチしたタイミングでホームページは閉鎖しました。紙で送っていた広報誌も、「今後はTUNAG で見ます」と希望してくれた人の分は減らせたので、ローンチから2週間足らずで約2,600部から約2,000部まで紙を削減できています。

～コミュニケーションの課題も挙げられていましたが、この点についてはTUNAG でどんな取り組みをしていくのでしょうか？～

山内：コミュニケーションについては、もともと広報誌の中にコンテンツとして入れていた「シェアフォト」や、組合員の声を紹介するコーナーを、TUNAG に移行しています。それにプラスして、何か面白い事例があったら取り入れていきたいと思っています。

コロナ禍でつながりが希薄になってしまったのは、中央と現場の組合員だけでなく、ブロックの役員と現場の組合員も同じです。まずはブロックの役員の人となりを知ってもらうように、輪番で「今こんなことにハマってます」とか、些細なことでいいので発信してもらうコンテンツを検討しています。そういったことをきっかけに、各ブロックが活性化していけばいいなと思っています。



TUNAG for UNION の運用について

スタート直後ながら、初回登録キャンペーンで登録率が約 60%に

～TUNAG の運用開始にあたり、具体的に何からスタートしたのでしょうか？～

山内：組合員向けに TUNAG をスタートした直後は、「初回登録キャンペーン」で登録を促しました。期間中に登録してくれた人に 1,000 円分のデジタルギフトをプレゼントするんです。このキャンペーンをしたことで、組合員約 3,600 名のうち、現時点で 2,145 名と、約 60%が登録してくれました。

今後は、残りの 40%ぐらいの人にどう登録してもらうかが大きな課題だと思っています。一つアイデアとしては「紹介ギフトプレゼント」みたいなものをやろうかなと思っています。

～TUNAG の運用体制や、役割分担について教えてください～

山内：コンテンツの構築をメインで行なっているのは、専従メンバー 5 名です。ホームページからコンテンツを移すなど、大枠を作る作業をしたのが私ともう一人の 2 名。その他の 3 名は、

担当している組織の活動や、労使間活動について、記事を作っています。

今後の運用にあたって、この 5 名を中心として、それぞれが担当しているブロックの役員たちと連携をしていきます。各ブロックからの連絡は、そのブロックの統括と副統括がメインになって回してもらう予定です。なので、全部で 20 名ほどで TUNAG を運用するイメージですね。

～組合員の方々はどのように利用するのでしょうか～

山内：うちは大きく 2 つの雇用形態に分かれていまして、正社員と販売正社員があります。TUNAG を利用するのは、正社員と販売正社員で、契約社員やアルバイトは含みません。

販売正社員というのは、商業施設や百貨店の販売員の方々がほとんどですが、一部内勤職の方もいます。販売正社員の 9 割ぐらいは会社からタブレットを貸与されているので、タブレットのブラウザで TUNAG を見るか、私用のスマートフォンで見るかの、どちらかですね。



TUNAG for UNION に期待する効果

KPI は利用率 80%、「このアプリいいよ」の連鎖を生みたい

～期待する効果について教えてください～

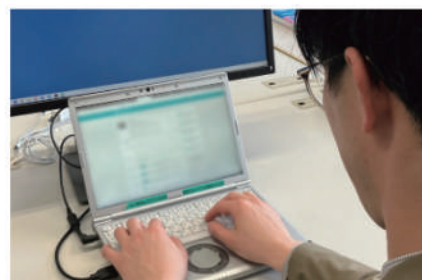
山内：KPI としては、今期末までに利用率 80%を目指しています。「2:6:2 の法則」で、「6」の人たちにどれだけ利用してもらえるか。TUNAG のホームページにも書かれていますが、組合活動をしていくうえで、大きな組織を動かすなら 8 割の人に情報が届くかどうかだと思っているので、80%

を 1 つの目標値にしています。

こちらが重要だと思ってる情報を、TUNAG の「必読」の設定で発信して通知を飛ばして、80%のうち半分くらいの方に記事を読んでもらえたいのかなと思っています。

指標以外の状態や効果でいうと、「人が人に紹介する」というのが一番効力が強いと思っているので、「これおもしろいからやってみたほうがいいよ」

という連鎖が表れる状態を目指したいなと思っています。



組織の目指す姿

自己成長の機会や情報を自ら掴みにいく能動的な組織を目指す

山内：ワコール労働組合では、中長期的ビジョンとして「WLU ビジョン 2030」を掲げています。「One WLU, HAPPINESS for ALL ～WLU は全ての幸せのために～」という副題があって、そのためにまず自分が成長する、組合員の成長を促していくということを掲げています。その中で今、人材育成に非常に力を入れており、「まずやってみる」「興味を持ったことに対して

行動してみる」というところに軸を置いています。

なので、TUNAG もそうですが新しいことがどんどん入ってくる中で、まず触れてみる。関わってみる。そこを組織として実現していきたいですね。お互いに、自己成長の機会を自分でつかみにいく。情報も自分から主体的に取りにいく。そういう能動的な組織を目指していきたいです。

その一環として、これから TUNAG を利用していきたいと思いますが、だからといってデジタルに疎い方を取り残していくわけではありません。情報は TUNAG に集約していく一方で、デジタルに慣れない方も一緒に、みんなで組織を運営していけたらと考えています。

固定概念を破ってアクションを起こせば、組合活動の幅も広がる

～最後に、他の労働組合の方にメッセージをお願いします～

山内：私が3年前に労働組合の役員になったとき、組合活動はアナログだなと感じる事が非常に多くありました。「労働組合とはこういうものだ」という固定概念のようなものがあって、声を挙げづらい部分があったと思うんです。

でも、その殻を破ってアクションを起こすことで、組合活動はどんどん改善していい方に向かうと思っています。今後そういう組合活動が展開されて行けば、より労働組合というものにスポットライトが当たっていくんじゃないかなと。

ただ、完全に脱アナログというわけではなくて、やはり組合活動は人から人に波及することで伝えていくものだ

と思っています。それを一番うまく伝えられるのは対面で表情を見ながらだと思うので、活動の軸は対面に置く。一方で、情報発信に関してはデジタルのほうが「誰でも」「どこでも」情報を取れるし、早いし、利点しかない

思っているのも、活動によって棲み分けをしながら、デジタルにシフトできるところはしていくほうが、活動の幅が広がると感じていますね。

～山内様、ありがとうございました！～



オンラインセミナー

組合内の コミュニケーション活性化と ペーパーレス化を 実現した取り組みを大公開！

参加費
無料



2023年
11/21 (火) 18:00 - 19:00



ワコール労働組合
中央執行副委員長

山内 一樹



TUNAG for UNION
営業責任者

田中 啓喜

コロナ禍をきっかけに対面でのコミュニケーションの機会が減り、組合員同士のつながりが希薄になってしまったことを課題に感じていました。

「活動の軸は対面に置きながら、情報発信をデジタル化していくことで、活動の幅を広げたい。」そう話す中央執行副委員長の山内一樹様に、取り組み内容や活用事例についてお話しいただきます！

オンラインセミナー参加の申し込みは
こちらのQRコードから！



／ こんなお悩みありませんか？ ／

本部

- さまざまな手段で情報発信しているが見られない・伝わらない
- アナログな運用が多く、業務工数や時間がかかる
- 組合の存在意義や存在価値を感じてもらえない



組合員

- いつどこでも手軽に情報を取得できる環境がない
- 各種申請や手続きをデジタル化してほしい
- 組合の動きや情報がわからないので、組合費を下げしてほしい



TUNAG for UNION が解決します！

スマホアプリ/PCどちらでも活用できる、労働組合に特化した専門サービスです。また、ツールのみのご提供ではなく、ツール導入が初めての方でもスムーズに活用が始められるよう、トレーナーによる導入サポート、他労組での活用事例の提供等も通じ、組合活動の効率化・課題解決に繋がっていきます。



TUNAG for UNIONが実現できること

- 組合本部からのお知らせ
- Web機関誌
- 組合活動報告
- 委員長メッセージ
- アンケート・投票・意識調査
- 各種申請・手続き
- 福利厚生
- イベント出欠 など

TUNAG for UNIONの特徴

POINT 01 伝えたい人に、伝えたい情報を、**"タイムリー"**に届けることが可能

POINT 02 面倒な作業をデジタル化により、**業務効率化**を実現

POINT 03 トレーナーサポートや事例共有による**スムーズな導入と継続的な活用**をご支援



業種業態・産別・規模を問わず 多種多様な組合様にご導入いただいております

ITOCHU LABOR UNION
伊藤忠商事労働組合

健全・安心・貢献
東海ろうきん

UNION TOKAI
東海労働組合連合会

全財務



KYB労働組合



情報労連
情報産業労働組合連合会



豊田合成労働組合



全員 全力 全森永
All Morinaga Labor Union

ダスキン労働組合
DAISKIN UNION

東邦ガス労働組合
TOHOGAS WORKERS' UNION



Gibraltar Union
ジブラルタ生命労働組合

ASSIST
ASICS UNION

イオンフィナンシャルサービスユニオン

イオンタウンユニオン

AEON delight group
UNION

良品計画労働組合
RYOHIN KEIKAKU LABOR UNION



後菜園労働組合

SEIKO EPSON LABOR UNION

MIRAIT
NE
ミライ・ワン労働組合

ENSU
ENEOSマテリアル労働組合

JU
ジェイコムグループ労働組合
Jcom Group Workers Union

宇部市職員労働組合
～国や自治体、民営企業に～



ミツヨ労働組合
川崎支店



山口県職員
労働組合

ゲーズホールディングスユニオン

DCMユニオン

UNION
全労金 沖縄県労働金庫労働組合

FUKAP
UNION

J-creation Union
JCU

※掲載許可をいただいている組合様の一部（順不同）

無料
デモ説明の
ご案内



具体的なサービス概要や導入事例はこちらから！
また、実際の画面を操作・閲覧できる無料デモのご案内もしております。

まずはTUNAGで検索

TUNAG 労組



お問い合わせはこちら

03-6824-2188

tunag-union@stmn.co.jp

運営元 株式会社スタメン

〔名古屋本社〕 愛知県名古屋市中村区下広井町1-14-8

〔東京拠点〕 東京都千代田区神田錦町2-2-1 KANDA SQUARE 11F

